Kitasato University
Pediatrics
Alumni Association

令和 7 年 12 月吉日
発行責任者　藤野　宣之

北里大学小児科同窓会会報　Vol.30

小児科同窓会総会 2025.6.14　レンブラントホテル

私の徒然言「つれづれごと」

医療法人社団白寿会

老人介護施設　青葉の丘

施設長　河西　紀昭

仕事場の自室にて。裏山は季節になると鶯がうるさいくらいに啼きます。

この２月で８０歳になりました。８０になったからといって何が変わる訳でもありません、ほほほ、が、８０年間よく生きてきたものだとも思います。高校から慶応でしたから１５歳から、予科の２年間２０歳まで日吉。学部４年間と卒後２年間の２６歳まで信濃町で、計１１年間慶応に在籍。昭和４６年５月から北里に来て、以降令和７年の現在まで、延々５４年間北里に在籍しています。人生の６、７割を北里で過ごしたとは遥けくも来つるものかな、という思いです。

信濃町の学部の学生だった頃は自動車部に所属していました。部車はアメリカ車のポンコツが２台。エンジンをかける時は前に行ってクランクを回す、親指をかけないで右回りに。エンジンがかかるとクランク棒が左回りに跳ね返って来ます。自動車部にいるときに解剖学教室の雑務の爺さんと知り合いになりました。部車でご遺体を運ぶ手伝いをしていたからです。この爺さんが北里にいたのです。解剖の教授が連れて来たのでしょう。この爺さんが一度別刷りをくれたことがあります。解剖室の怪奇現象というような表題だったと思います。

小児呼吸器の中嶋英彦先生が北里に赴任する前のことです。当時前橋の方で開業されていた先生をなんとか北里に引き抜こうと、坂上先生は何度も足を運んでいました。私も坂上先生の鞄持ちとして随伴していました、ハイヤ～で北里から前橋まで。三顧の礼だと言われました。諸葛孔明の如く回診の軍師として重用されました。

輿水先生が亡くなられた時は小児科内部に衝撃が走りました。双極性障害を患っていたのですがその論文の多さから将来は教授と言われていましたから。当時助教授は２人で一部屋を割り振られており、私も輿水先生の部屋に同室とされました。輿水先生の担当業務は多岐にわたっていました。その中に支払基金の審査委員というのがありました。輿水先生が亡くなられた後この審査委員をまかされました。こども医療の星野陸夫先生のお父様は先日亡くなられましたが、小児科の審査委員の先達で種々教えていただきました。この審査委員は医学部から見れば裏方の仕事で業績には入りません。しばらくして審査委員の専任となりました。専任となりますと、月に最低１０回は当時横浜のマリンタワ～の側にあった事務室に通わなければなりません。まあ平石先生からはよくやってられるね～と皮肉を言われましたが。裏方が私には合っているのでしょう。

私は同窓会の将来を心配はしていません。人間は年をとればおよそ人恋しくなり身を寄せ合っ

てくるものですから。学会の参加も楽しい思い出ばかり沢山あります。一緒に遊び歩いてくれた守屋先生、中村先生、大熊先生には感謝しかありません。大熊先生はロンドンのガイズ医学校に留学した時は、どこに住むのか心配しました。場所によっては治安も悪いですから。確かロンドンの北東の方だったかと記憶しています。守屋先生は南の方。二人ともあまり日本人が住んでいない所で生活していました。天邪鬼ですね～。

徒然なるままに心侘びて一筆認めました。

会長挨拶

あっという間の３年間

藤野こどもクリニック
院長　藤野　宣之（6 回生）

小口先生から同窓会長を引き継いでから早くも３年が過ぎました。
引き続き、会員皆様から多くのご支援をいただきましたことを、深く御礼申し上げます。
新しくお迎えした理事の先生方とも役割分担を決め、新たな活動が始まりました。皆様とても意欲的で、改革が進みそうな気配を感じます。今年度の会報では昨年お知らせした、松浦先生の尊い受賞の詳細についてご執筆いただきましたので、ぜひご一読ください。

さて昔から私のことをご存じの方は、”ゲーム好き”というイメージをお持ちでしょう。
出向病院では当直室で夜通しゲームにいそしんでいましたので、看護師さんからは“何時に電話をしてもすぐに出て、起きてきてくれる”と好評を博していました。国立循環器病センターへの出向から帰った後も、全国に散らばる同期や先輩諸氏の大学や有名病院から、攻略に行き詰ると質問（妖精の笛などの在り処など）の電話が昼夜を問わずかかってきました。医療の情報交換だけでなく、趣味でも親交を深められたことは良い思い出です。

そのような昔話を書いていた矢先、神の啓示か『ドラゴンクエストリメイク I+II』が発売となりました。早速購入し、勤務の隙間時間を縫っていそしんでおりますが、『ドラゴンクエストⅠ：DQ I』は今までよりも手強いです。ロールプレイゲーム（RPG）をあまりご存じのない方に説明いたしますと、通常主人公は複数人、多くは３人以上の仲間で防御や回復、攻撃を分担して戦います。ところがリメイク版第１作の DQ I は終始１人旅です。１回攻撃すると敵の攻

名前の漢字間違ってるし、
あまりありがたくない盾

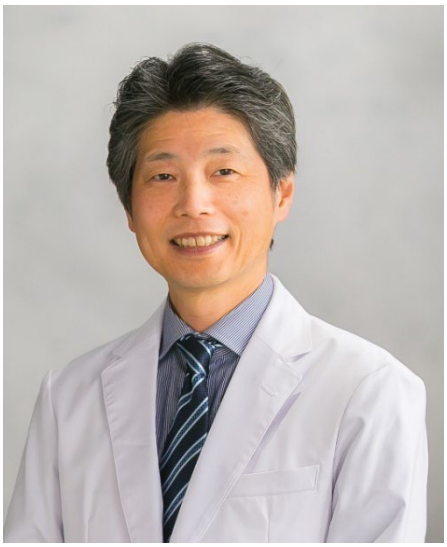
撃ターンが終わるまで何もできません。中盤以降に急に敵が強くなり、複数の敵に連続攻撃などを受けると１ターン目でゲームオーバーです。旅の途中で珍しい武器やアクセサリーを手に入れても、一人では持て余すだけで楽しめません。早く『I』を終わらせて『II』に進みたい気持ちで一杯ですが、仲間が必要であることが今更のように身に沁みます。人生も仲間がいると苦労や喜びが分かちあえますので、同窓会にご参加いただいて昔の仲間と再会していただきたいと思います。そのために、お互いの距離感が縮められるイベントや集会、グッズの作成ができたら良いと思います。

取るに足らない話が長くなりましたが、今後とも同窓会へのご厚情・ご援助をお願いいたします。

北里大学医学部小児科学　教室近況

令和７年を振り返って

北里大学医学部小児科学
教授　石倉　健司



北里小児科責任者の石倉です。恒例となりますが、まずは令和７年を振り返り、そして今後の展望をお伝えしたいと思います。

令和７年は、社会では生成 AI の活用が急速に進んだ一年であったと思います。日本小児科学会をはじめ、種々の学会で臨床や研究など医療・医学の幅広い分野での生成 AI の活用が議論されていました。私自身、北里小児科の発展のために生成 AI をいかに活用出来るのか、色々と模索しました。その一端を、毎朝の小児科総合カンファレンスで、小児科の皆さんに共有しました。今後も注視していきたいと考えています。

今年の入局者は１名と少数精鋭ではありますが、まさに“選りすぐりの精鋭”と呼ぶにふさわしい力強い仲間が加わりました。少人数だからこそできる密度の高い教育・臨床経験を提供し、これからの北里小児科を担う存在として大いに期待しています。ぜひ皆さまにも温かく見守り、応援していただければ幸いです。

学会活動については、オンサイト参加が再び主流になりつつある一方で、オンラインやハイブリッド形式も完全に定着し、目的に合わせた参加形態を選べる“新しい学会文化”が根付きました。また、同時通訳や AI 支援ツールの進化により、若い医師たちが国際学会へアクセスしやすくなったことも、教育面の大きな追い風となっています。学びのスタイルが多様化したからこそ、ぜひ積極的に学会発表と交流に挑戦し、世界に目を向けて成長してほしいと願っています。

自分が着任してから始めた Kitasato Pediatrics - *Meet the Professional* -は、継続して開催し、多くの参加者を集めるイベントとなりました。相模原小児科医会学術会も、緒方会長の強力なご支援、

平田先生の丁寧な運営のおかげで安定して継続しています。また、各種研究会や学術集会を当科主導で開催できていることは、医局全体の活性化につながる重要な取り組みであり、今年も引き続き積極的に進めていきます。

研究活動についても、医局として「大学らしい研究」を成長させる段階に入りました。人材確保と育成は依然として最大のテーマですが、現メンバーの力を結集し、小児科としての独自性と強みを発揮する研究活動をさらに伸ばしていきたいと考えています。当科ホームページでは研究成果や外部資金の獲得状況を随時更新していますので、是非ご覧ください。

そして私事になりますが、私が Managing secretary を務める IPNA 2027（国際小児腎臓学会）京都開催に向けた準備が、今年さらに本格化しました。1986 年以来、41 年ぶりとなる日本開催であり、当科および日本の小児腎臓領域にとって大きな節目です。昨年のバレンシアでの最終プレゼンで日本が開催地に選ばれて以降、多くの関係者と協力しながら運営体制を整備してきました。また国内外の学会でも、プロモーション活動を行ってきました。2027 年には世界中の仲間が京都に集うことになりますので、同窓会の皆さまにもぜひ足を運んでいただければと思います。

最後になりますが、日頃から北里小児科を温かく支えてくださっている同窓会の皆さまへ、心より感謝申し上げます。若手医師の教育と育成は常に私たちの最も重要な使命であり、皆さまからの基金をはじめとするご支援により、大きな力を得ています。令和 8 年も、北里小児科は一層の発展を目指して前へ進んでまいります。今後とも変わらぬご支援を賜れますと幸いです。

受賞報告

北海道医師会賞・知事賞受賞の報告

市立美唄病院小児科

北海道大学大学院医学研究院客員研究員

松浦　信夫

北海道知事賞・医師会賞　贈呈式

北里大学医学部小児科同窓会の皆様、お元気ですか。北海道を離れ、神奈川県で過ごした 23 年間は、私にとって貴重な経験でした。日本の中心にあって、いくつかの貴重な仕事をさせていただき、足跡を残すことができました。神奈川を去り、北海道に戻るにあたって、どうしてもやりたいことが幾つかありました。その最大のものは、北海道で働いていた間に集めた、小児期発症 1 型糖尿病児の長期予後調査です。帰道後、多くの先生方の協力を得て調査を終え、その

成果を日本糖尿病学会欧文誌に報告しました（Diabetology Int(2024)15:362-368）。これが、今回受賞の背景です。併せてこれに関連し、永井賞（北海道小児保健研究会）、田中賞（日本小児内分泌学会）も頂くことになりました。ここに、その概要を報告いたします

北海道は、日本の人口の 5%を占め、糖尿病先進国であるフインランド、デンマークなどと、ほぼ同じ規模にあります。1973 年にサマーキャンプを開催し、それに合わせてほぼ毎年、新規発症者の調査を続けました。北海道にある 3 大学医学部共同キャンプで、行政の協力も得て、ほぼ 100%の症例把握ができていました。1988 年、青函トンネルが開通するまで、若い道民の移動は少なく、20 年間続けた発症症例は、松浦コホートとして記録されていました。これをもとに、発症率を調べ、Diabetes Care (21:1632,1998)に報告しました。

北海道に戻るにあたり、私の後にキャンプを継続してくれていた小児科の先生方、糖尿病学会北海道支部内科医の賛同、協力を得て、2000 年 2 月から実際の調査を始めました。美唄市立病院嘱託医として働きながら、診療が終わった後に、松浦コホートをもとに追跡調査を行いました。1959 年から、1996 年の 37 年間に診断された症例は 521 例で、391 例（75%）の追跡ができました。ほぼ 3 年間で追跡を終え、山梨大学横道洋司先生に統計解析をしていただきました。その概要を表に示しました。調査期間を、1970 年、1980 年、1996 年群の 3 群に分け、死亡率を比較すると、標準死亡比 SMR は、8.8，5.9，3.2 で年代順に改善していることが明らかになりました。このほか、明らかにできたことは、慢性腎不全による透析症例数、発症時の急性合併症の死亡が減少したこと、緩徐進行型症例、思春期発来後発症症例の透析導入率が多いことが明らかにされました。一方、社会人になって、一人で生活する症例、特に男性の突然死症例が増えていることも、今後の患者指導に重要な所見でした。2000 年代に入り、ポンプ療法、自動血糖測定装置(CGM)の普及で、さらに 1 型糖尿病の医療は進歩しており、さらなる予後改善の報告が期待されます。

今年 4 月からは、一般小児科診療は卒業し、専門外来診療のみとなりました。時間に余裕ができ、北海道シニアサッカーリーグの中でも、75 歳以上のスパーシニアサッカーの試合に精を出しています。北里大学小児科、及び同窓会の発展を見守ってゆきたいと思います。

表１．長期予後調査の概要.

診断年	1959-1979	1980-1989	1990－1996
罹病期間(年±SD)	（発症時死亡2名を外す）	（発症時死亡2名を外す）	
生存追跡症例	51.5±3.1 (n=69)	42.3±2.8 (n=172)	29.9±1.8 (n=84)
死亡追跡症例	36.7±12.2 (n=34)	24.9±11.5 (n=24)	16.7±10.1 (n=4)
最終年齢(年±SD)			
生存追跡症例	59.7±4.8 (n=69)	52.3±4.2 (n=172)	43.9±4.4 (n=84)
死亡追跡症例	46.4±11.8 (n=36)	35.1±11.6 (n=26)	28.1±9.7 (n=4)
10万人当たりの粗死亡率 (95%Confidence Interval)	823（573-1,145)	370 (239-546)	133 (27-389)
標準死亡比(SMR(95%CI)	8.8 (5.9-11.9)	5.9 (4.0-8.6)	3.2 (0.9-8.7)

関連病院報告

北里大学メディカルセンター近況報告

北里大学メディカルセンター　小児科部長

木村　純人（２６回生）

前任の坂東先生から部長職を引き継ぎ、早１年半が経過いたしました。北里大学メディカルセンター（KMC）は小児地域支援病院、地域小児科センターとして現在小児病床 16 床で運営しております。内訳は 3 床の新生児部屋、個室病床 3 部屋と 5 床の大部屋 2 部屋となっております。コロナ禍以降病床稼働率は最大半減し、徐々に改善しつつありますが 2019 年以前の状況には戻っておりません。

小児救急としては埼玉県中央地区である鴻巣市、北本市、桶川市、上尾市、伊奈町を担当しております。周辺人口は約 50 万人で 2023 年度は夜間・土休日の輪番当番日が 206 日、救急車搬送受入患者数が 554 名、休日及び時間外外来受診者数が 1600 名、入院患者数が 118 名でした。現在の常勤医師は 4 名と昨年に比べ 1 名減員しているため、日曜の夜間輪番については引き続き埼玉県立小児医療センターより派遣していただいています。

救急外来受診の 9 割以上は軽症患者ですが、やはり一部重症患者がおり、また、小児年齢は ICU 入室ができず、4 歳未満の全身麻酔を要する手術も対応できないためそのような症例は埼玉県立小児医療センターや埼玉医科大総合医療センターなどに転院搬送を行っております。新生児領域での集中治療が必要な場合は、自治医大さいたま医療センターに依頼することとなります。入院患者をできるだけ本院で治療したいとの考えから、2024 年より High Flow Therapy を導入し、新生児の軽度呼吸障害から低月齢の RS ウイルス細気管支炎などに活用しており、一定程度の高次医療機関への搬送抑止になっています。

北里大学病院周辺の関連病院との大きな違いは上記の如く、重症患者を依頼する際に全く関連のない病院に送ることですので、普段から地方会や地域の重症者報告会などへの参加が重要となっています。しかしながらリモートでの参加が主となっており、どのような形で KMC 小児科のプレゼンスを示すかが目下の課題と考えております。

他院の事例に漏れず、当院も 2024 年から急速に経営状況が悪化しております。そのため、374 床の許可病床のうち 100 床近くを閉鎖し病床運用の効率化、コンパクト化を図る経営方針に転換しております。幸い小児科病棟は縮小を免れておりますが、今後も安泰ではいられない可能性が高いと考えております。予約外患者や救急車の受け入れなどで患者数の増加を図りたいところですが、

働き方改革による就業時間の厳格化や日当直の制限のため、思うようにはいかないのが現状です。「黄色と黒は勇気のしるし 24 時間戦えますか」を叩き込まれた世代にとっては物足りなくもありますが、若い世代がそれほど体調を崩すことなく勤務をこなしているのを見ると、やはり必要な制度と痛感します。個々のワークライフバランスを鑑みながら、細くともしぶとく小児科を存続させていきたいと考えています。

～Tea time～

近況報告

秋山こどもクリニック

秋山　和政（２９回生）

常呂海岸での鮭釣り。筆者（中）

北里大学医学部平成 16 年卒の秋山和政と申します。大学時代、大変お世話になりました先生方、同期、後輩の皆様、ご無沙汰しております。現在私は、北海道北見市で、父が開業しました小児科医院を継承しております。今回、中村信也先生より、執筆のご依頼を承り、僭越ながら近況をご報告させて頂きます。

退局から約８年の月日が経ち、その間、医療においては新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の危機がありました。未知の感染症の流行という経験したことのないものへの対応は、小さなクリニックながら大変苦慮致しましたが、高次医療機関である大学や関連病院、都市部でご勤務されていた先生方のご苦労は想像に難くありません。御多忙から私を忘却された先生もいらっしゃるかもしれません（笑）。また、石倉教授のもと多くの先生が同窓の門を叩いていると伺っておりますので、簡単ではございますが自己紹介をさせて下さい。

私は卒後、北里大学病院で初期研修を行い、同院小児科で後期研修を行いました。同期は扇原義人先生、金子忠広先生、昆伸也先生です。平成 16 年より必須化された新臨床研修制度の一期生であり、研修指導が手探りの中、先達の先生方には大変お世話になりました。研修後は、石井正浩教授の御高配により東京慈恵会医科大学遺伝子治療研究部で、先天代謝異常症、主にライソゾーム病の研究を行っておりました。帰学後は新生児班に所属、釼持学先生、狐崎雅子先生より御薫陶を受けました。その後、相模原協同病院への出向を経て平成 30 年より現在のクリニックで勤務しております。

当クリニックのある北見市は、道東オホーツク管内では一番大きな商業都市であり、面積は道内で最も大きく、東京都の 2/3 程あります。広大な土地を活かした農業も盛んで、たまねぎの生産量は日本一を誇ります。戦前は薄荷の生産が盛んで、当時は世界市場の 70%を占めていたとのことです。最近では、北見カーリングチーム、ロコソラーレが平昌五輪、北京五輪でメダルを獲得し、北見という地名を耳にされた先生も多いのではないかと思います。人口は約 11 万人と道内では規模の大きい町ではありますが、少子化の波を正面から受けているような町でもあり、この 10 年で出生数は約 4 割減少しました。減少率の加速も深刻で、昨年は前年比約 1 割の減少となり、医院の今後に不安を感じる状況です。しかし、当地は医療過疎地であり、100km 以上離れた地域から通院される患者さんも少なくありません。来道後、開設致しました病児保育室には、年間延べ 800 人以上の方に利用頂いており、微力ながら地域医療に携わる機会を頂いております。引き続き医院スタッフの尽力に支えられながら、地域医療に貢献できるよう診療を続けていきたいと思っております。先日、大学時代の先輩、後輩が遠方よりお越しくださり、大自然の中で鮭釣りを楽しみながら、旧交を温めることができました。御来道の際は、是非お立ちより頂ければ嬉しく存じます。本稿を執筆しております本日 10 月 29 日、北見に初雪が降りました。これから長く寒い（零下 20 度　涙）冬になりますが、寒さに負けず情熱を持って職務に精進してまいります。同窓の先生方におかれましては、ご自愛のうえ、益々の御発展を御祈念申し上げます。

2025 年度医局長報告

北里大学小児科医局の近況ご報告

医学部小児科学　診療講師

医局長　昆　伸也（30 回生）

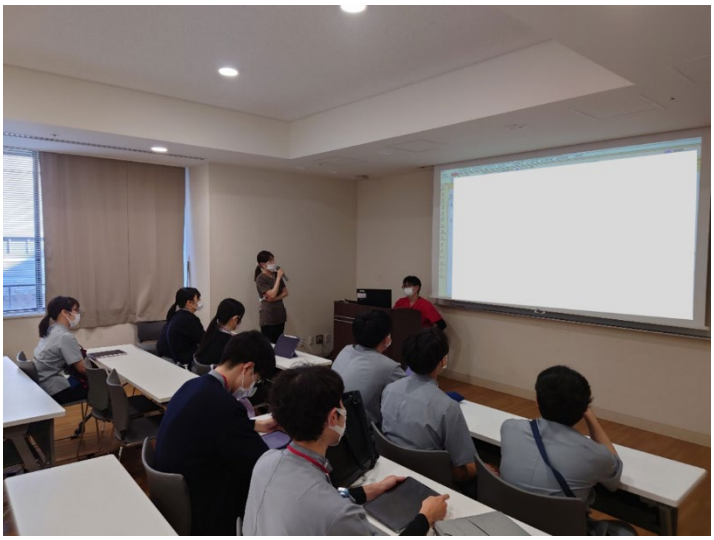
北里大学小児科同窓会の先生方へ

晩秋の候、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、当教室の教育・診療・研究活動に対しまして、温かいご支援とご助言を賜り、心より御礼申し上げます。

現在の医局の様子や取り組みについてご報告申し上げます。

まず、医局の体制についてご報告いたします。2023 年度には 3 名、2024 年度には 4 名、そして 2025 年度には 1 名の新たな仲間を迎えることができました。いずれも熱意と個性にあふれた若手医師であり、診療・教育・研究の各分野で活躍が期待されます。近年は医学生や初期研修医の小児科志望

者が減少傾向にある中で、こうして継続的に入局者を迎えられていることは、ひとえに同窓の先生方のご支援と、医局全体の努力の賜物と感じております。
若手医師の確保と育成に向けて、当医局では情報発信の強化にも取り組んでおります。特に、SNS（Instagram）を活用し、医局の雰囲気や日々の活動、研修内容を積極的に発信しています。医学生や初期研修医にとって、医局の「今」を身近に感じてもらえるよう、写真を交えた投稿を心がけており、実際にSNSを通じて医局に関心を持ち、見学や実習に訪れる学生も増えてきました。今後も、時代に即した広報活動を通じて、より多くの若手医師に小児科の魅力を伝えていきたいと考えております。
教育面では、専門医制度の運用が定着しつつある中、後期研修プログラムの柔軟化を進め、個々の志向や将来像に応じたキャリア形成を支援しております。また、学生教育においても、臨床実習の質的向上を図り、実践的な学びと小児科のやりがいを実感してもらえるよう工夫を重ねております。
診療においては、地域医療との連携をさらに強化し、慢性疾患や発達支援を必要とするお子さんへの包括的なケアの提供に力を入れております。医療と福祉、教育の連携を意識した支援体制の構築を目指し、地域に根ざした小児医療の実現に取り組んでおります。
研究活動では、若手医師の学会発表や論文執筆を積極的に支援し、臨床現場から生まれる疑問を研究につなげる姿勢を大切にしております。基礎研究との連携も進めながら、子どもたちの未来に貢献できる知見の創出を目指しています。
同窓の先生方におかれましては、日々のご活躍に敬意を表するとともに、今後とも変わらぬご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます。医局員一同、北里大学小児科の理念を受け継ぎながら、子どもとその家族に寄り添う医療の実践に努めてまいります。
末筆ながら、先生方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



小児科総合カンファレンス（朝カンファ）の様子

留学報告

小児消化器診療における国内留学の報告

医学部小児科学

稲木　秀英（４３回生）

私は 2025 年 4 月より、東京都立小児総合医療センター消化器科で国内留学をさせていただいております。小児消化器領域における診療技術の向上および幅広い疾患への理解を深めることを目的として、日々診療に携わっております。

現在の主な業務は、外来診療、内視鏡検査、消化管造影検査です。外来診療は週 2 回担当しており、便秘症や過敏性腸症候群といった機能性消化管疾患の患者さんを中心に、時に炎症性腸疾患を含むより専門的な疾患にも対応しています。食事や生活背景に基づいた症状の変動、心理社会的要因の関与など、単に検査所見だけでは判断しきれない要素が多いことを改めて実感しており、患者さん・ご家族と丁寧に対話する重要性を再認識しながら診療を行っています。

内視鏡検査は週 2 回行っており、多い時は 1 週間で計 9 件ほどと、数多くの症例を経験させていただいております。4 月当初は操作に不慣れで、視野展開などに苦労することも多くありましたが、上部消化管内視鏡検査については徐々に自分の意図した視野が得られるようになり、ようやく基本操作に手応えを感じられる段階になってきました。一方で、現在は下部消化管内視鏡検査の技術習得に取り組んでおりますが、粘膜の繊細な変化の見極めや腸管走行に応じたスコープ操作など、難しさを感じることも多く、日々試行錯誤を重ねている状況です。今後は異物除去など治療的内視鏡手技についても経験を積み、より幅広い臨床状況に対応できるよう成長していきたいと考えています。

また、消化管造影検査も週 2 回行っており、主として嘔吐や便秘の精査目的の症例に携わっています。内視鏡検査や超音波検査とは異なる画像的な視点から解剖・動態を理解する機会となっております。症例ごとに適切な検査適応や撮像手技を検討する難しさと奥深さを感じており、こちらも着実に経験を積んでいきたいと考えております。

以上のように、日常診療の中で多くの学びを得ながら、まだまだ技術的にも知識的にも発展途上であることを痛感する毎日です。しかし、周囲の先生方から温かくご指導いただき、恵まれた環境の中で研鑽を積めていることに大変感謝しております。

最後になりますが、石倉教授をはじめ北里大学医学部小児科学の先生方、ならびに関係者の皆様に、このような貴重な学びの機会をいただきましたことを深く感謝申し上げます。今後も引き続き精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

****

留学して「国立成育医療研究センター」

医学部小児科学

羽田　瑠美

循環器科カンファレンスにて

2025 年 4 月から国立成育医療研究センター循環器科に国内留学させていただいている羽田瑠美です。

私は 2020 年のコロナ渦に当科に入局した頃より小児循環器分野に興味があり、この度機会を賜り循環器科フェローとして 1 年間研修をさせていただいております。

国立成育医療研究センターは東京の世田谷区に位置しており、主に都内や関東近郊の患者さんを対象に診療を行っていますが、全国から患者さんが治療を求めて集まってこられます。

循環器科では、先天性心疾患、不整脈、心筋炎、感染性心内膜炎、川崎病冠動脈瘤といった代表的な疾患のみならず重症心不全における補助人工心臓植え込み中の患者さんの管理や、全国で 7 施設ある小児心臓移植施設の一つとして心臓移植医療を担っています。

この半年の間に小児心臓移植に立ち会う機会がありました。心臓の摘出、移植を同時に見学させていただき、小児心臓血管外科医師の手技の正確さと速さに驚いただけでなく、小児循環器科医師、看護師、コーディネーターなどチーム一丸となって遅滞なく適切に心臓移植が行われるよう協力して取り組んでいることを学びました。

また、平均待機期間 2 年と言われる心臓移植を、日々辛抱強く待っているご家族と毎日接していると、補助人工心臓装着による合併症（例えば血栓塞栓など）への不安や成長発達の遅れの不安、親御さんの健康面の不安など様々な問題にご家族は直面しているということがわかり、移植件数がアメリカと比べてまだまだ少ない日本の小児心臓移植医療の難しさを非常に強く感じました。

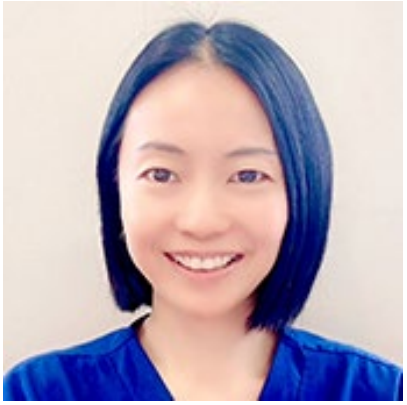
今年の小児循環器学会にて

また研修期間中に診療にあたった症例として、乳児に対して心臓再同期療法を行った例や、心タンポナーデによる拡張障害を認め心嚢ドレナージを要した例、新生児マルファン症候群の乳児に対して僧帽弁形成術を行った例などがあり、これまで経験したことのないものばかりで日々勉強させていただいております。

お昼を食べそびれるほど忙しい日も多々ありますが、同期の 2 人のフェローと互いに協力し分担しあいながら毎日充実した研修をしています。

最後に、留学先を御調整頂きました石倉健司教授・平田陽一郎准教授、厳しい医局人事の中快く送り出して下さった医局員の先生方、同窓会の皆様に深く感謝申し上げます。こちらで得たことを北里大学小児科に帰ってから臨床の場で還元していき、また後輩への指導にも活かしたいと思います。

新入会員



北里大学医学部小児科学　講師
寺野　千香子

2025 年 4 月からご縁を頂き北里大学小児科のメンバーに加えて頂きました寺野千香子と申します。小児腎臓を専門としております。東邦大学を卒業し、横浜労災病院で初期研修、小児科後期研修を修了後、東京都立小児総合医療センター、あいち小児保健医療総合センターで勤務し、現在に至ります。いずれの小児病院も慢性腎不全をはじめ腎臓の症例が多く経験できる環境で、小児腎臓専門医として研鑽を積ませて頂きました。16 年間の小児病院勤務では、ネフローゼ症候群から慢性腎不全まで幅広い腎疾患の診療に携わり、多職種チーム医療の重要性を学びました。
初めての大学病院ということで、まだまだ慣れないことばかりではありますが、後期研修医の先生方もとても熱意があり、優秀な先生が多くいらっしゃるので改めて一緒に勉強させて頂いています。また今まで初期研修医の先生方と出会う機会がほとんどなく過ごしてきましたので、これからは 1 人でも多くの先生に小児科の魅力を知っていただきたいと考えております。大学病院では、高度な専門医療の提供とともに、次世代を担う医師の育成という新たな使命を感じております。今まで先輩方に教えて頂いた知識のみでなく、小児腎臓疾患は生涯にわたる管理が必要な場合も多く、患児とご家族に寄り添う姿勢の大切さを後輩に伝えていくことが出来れば嬉しく思います。
医師は一生勉強と思っております。臨床だけでなく石倉教授のもと臨床研究にも関わらせて頂く機会もあり、忙しいながらも充実した毎日です。これからも皆様と一緒に成長できるよう頑張っていきますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

****

北里大学病院　後期研修医 1 年
蔭西　彩太

2025 年度より入局いたしました蔭西彩太と申します。

私は神奈川県横浜市の出身で、都内にある私立麻布高校を卒業後、筑波大学に入学しました。筑波大学卒業後は相模原協同病院で初期研修医として医師人生をスタートいたしました。初期研修では様々な診療科をローテートする機会がありましたが、かねてからの夢であった小児科医を目指すことを決心し、ご縁があって北里大学へ入局を決めました。

入局当初は右も左もわからず、慣れない環境の中で風のように過ぎ去っていく毎日でした。専攻医として半年ほど経過してもまだまだ失敗と学びが多く、自分の甘さを痛感する毎日ですが、最近は少しずつ自分の成長が感じられるようになってきました。これもひとえに先生方のご指導の賜物であると考えております。ひとつひとつの症例を大切にしながら学びを深め、数年後の後輩たちに還元できるように努力していこうと考えています。

これからも教育熱心な先生方のご指導のもとで働かせていただけることを大変光栄に感じております。まだまだ未熟な身ではございますが、北里大学小児科の一員としてより良い医療を提供するため、日々精進いたします。先生方におかれましては、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

会員近況報告 （年度初めの名簿記載事項確認の際に併せてお知らせいただいたものです。）

（50 音順に掲載しております）

●大山宜秀：3 年前診療所を閉院、保育園、学校医、いくつかの法人役員を務める以外”サンデー毎日”の生活が日常です。

●白井宏幸：相模台病院は退職しましたが、相変わらず勤務医しております。

●関根　徹：令和 7 年 6 月末で 22 年間続けた「せきね小児科クリニック」を閉院しました。三瓶みずほ先生(北里大学小児科講師だった故大田剛穂先生の長女)が継承してくれて、8 月から「上溝こどもクリニック」となります。暖かく見守ってあげて下さい。小生はのんびり&ゴルフして残りの人生を謳歌する予定です。今までご指導・ご鞭撻を頂き、ありがとうございました。

●松浦信夫：勤務状況が変わり、月 2 回の、専門外来のみとなりました。７５歳以上のサッカーチームで、月２回、元気に試合に参加しています。

総会開催報告

総務担当理事　内藤　剛彦（１１回生）

令和 7 年度総会は 2025 年 14 日土曜　17:30 からレンブラントホテル町田で開催され新規入会者 2 名を含む 51 名が出席されました。藤野会長の挨拶の後、例年通り、事業・会計報告、次年度の事業計画・予算案の審議、同窓会基金の現況について各理事より報告がありました。また石倉教授より医局報告・新入会会員の紹介がありました。

今年度は役員の改選があり、総会で承認され新体制の発足となりました。

引き続き、令和 6 年度　北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞された松浦信夫元教授より「北海道で発症したＩ型糖尿病児の長期疫学的研究―発症率とその長期予後」のご講演を頂きました。また、医局からは新貝龍太郎先生に発表していただきました。

会場を移した懇親会では新入局員の自己紹介、会員の近況報告があり、また各テーブルではそれぞれトークが盛り上がり盛会の後終了となりました。

同窓会総会は北里小児科に在籍した者の親睦・キャリア形成の機会です。より多くの会員が参加していただけるように役員一同努力いたします。皆様のご協力お願いします。

総会の様子

懇親会

総会議事録

****

会員数 243 名　（総会成立要件：会員数の 1/3＝81 名）81 名
総会議決承認要件：会員数の過半数⇒122 名
出席　51 名　委任状　101 通　合計　162 名　過半数の 122 名を超え総会は成立となりました。

【議事 1-1　2024 年度事業報告】

2024 年 8 月　名簿発行
2024 年 5 月 30 日　第 1 回理事会　Zoom 開催
2024 年 5 月 30 日　第 1 回理事・評議員会　Zoom 開催
2024 年 6 月 15 日　総会・懇親会　レンブラントホテル町田
2024 年 10 月 2 日　第 2 回理事会　Zoom 開催
2025 年 2 月　会報発行（Vol.29）
2025 年 3 月 31 日　臨時総会（書面決議）会則変更承認
会員数　（2025 年 3 月現在　241 名）
新入会員：2024 年 4 月 1 日付（敬称略）安藤颯真・笠松祐介・橋本知公・望月大輔
退会会員：菅波優江・吉野ラモナ　物故：遠藤紀雄（2024 年 8 月 15 日逝去）

【議事 1-2　2025 年度事業計画】

名簿発行（2025 年 形式について検討中）
会報発行（2025 年 12 月発行予定　Vol.30）
2025 年 5 月 14 日　第 1 回　理事会(Zoom)
第 1 回　評議員会(メール審議)
6 月 14 日　総会　（対面）レンブラントホテル町田
新役員体制の任命
11 月　第 2 回　理事会
2026 年 3 月　第 3 回　理事会
会員数　（2025 年 4 月現在　243 名）
新入会員：寺野千香子・蔭西彩太
2025 年度　事業計画について
・会員相互の親睦・懇親・互助関連　　新たな広報の在り方検討
・郵便物による連絡の運用見直し　メールアドレスの確認
・HP 作成の検討　・会費納入に関する事項及び会員の異動等の掌握
・大学医局若手支援　・同窓会基金の運用　再検討
・総会・懇親会の企画　・小児科学会・小児科医会・相模原小児科医会との連携

【議事２－１　2024 年度決算報告】

2024年度小児科同窓会収支決算報告書（主会計）（2024年4月1日～2025年3月31日）			
収入の部		支出の部	
会費（2024年度）	640,000	会議費用	0
会費（過年度）	230,000	同窓会総会費用	442,000
会費（次年度以降）	10,000	名簿発行費用	4,110
同窓会参加費	516,000	会報発行費用	30,830
利息	604	郵便振替・振込み手数料	11,159
		郵送･通信費	102,859
		慶弔費	10,000
		雑費	21,855
		人件費（2023 年度実績分）	1,122,000
収入合計	1,396,604	支出合計	1,744,813
前年度繰越金	4,628,752	次年度繰越金	4,280,543
合計	6,025,356	合計	6,025,356

【議事２-２　2025 年度（主会計）予算案】

（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

収入の部		支出の部	
会費（過年度含む）	1, 600, 000	会議費	20, 000
総会費用	500, 000	総会費用	500, 000
利息	600	名簿発行費用	5, 000
		会報発行費用	35, 000
		郵便・通信費	130, 000
		郵便振替手数料	15, 000
		慶弔費	50, 000
		雑費	30, 000
		人件費（2024年度実績分）	1, 287, 900
収入合計	2, 100, 600	支出合計	2, 072, 900
前年度繰越金	4, 280, 543	次年度繰越金	4, 308, 243
合計	6, 381, 143	合計	6, 381, 143

【議事３　広報・HP　事業報告】

（１）名簿発行　2024 年 9 月

会報発行　Vol 29　　2025 年 1 月　発行

会員数　242 名（会報発行時　2025 年 1 月現在）

発送　221 名　（あて先不明会員　約 21 名には送付なし）

今後はメールでの連絡が増えるので、アドレスの記載をお願いする

（２）HP 進捗状況

小児科 HP 内　同窓会 HP バナーを使用して作成することを検討中

メディカルプリンシプル社、その他 2 社について見積もり依頼

【議事４ 小児科同窓会基金　2024 年度収支報告】

（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	4, 544, 284	若手支援（学会参加費・旅費等）	53, 000
寄付金	1, 242, 000	〃（論文校正料）	350, 562
		図書（新入医局員へ）	218, 272
		Hp修正・追加ほか	582, 252
		リクルート関連経費	513, 350
		郵便代（寄付依頼手紙発送用）	17, 600
		振込手数料	1, 150
収入合計	5, 786, 284	支出合計	1, 736, 186

次年度繰越金　￥4, 050, 098

【議事５　新役員の任命】

任期 2025 年４月～ 2025 年３月（事業年度）

候補者（50 音順）

会長	藤野宣之
理事	現　石倉健司・内藤剛彦・中西秀彦・中村信也・坂東由紀・渡邉智子 学内理事　野々田豊 新　伊藤尚志・望月美和・守屋俊介
評議員	現　緒方昌平・木村純人・釼持学・佐藤雅彦・田久保憲行・中畑弥生 平田陽一郎 新　扇原義人・南野初香
監事	横田行史　箕浦克則

★議事 1～5 は全て承認された

【その他連絡事項】

① 会費集金について　（会員数 242 名　会費納入　約 132 名）

支払い率　57%　（対：会費免除会員を除く会員数）

※郵便不達 22 名控除した場合の支払い率：64%

②年会費　増額について

５０００円から１００００円へ増額（病棟医以下　５０００円）

※2024 年度第 3 回理事会承認

③メールアドレス　未確認者約４０名

約１０名は確認できる可能性があり、極力メールでの連絡をお願いする。

④次回　総会・懇親会

2026 年 6 月を予定　　場所など検討中

総会終了後

・松浦信夫先生・「北海道医師会賞・北海道知事賞」受賞記念のご発表

・医局員から　新貝龍太郎先生のご発表

懇親会

2024 年度　小児科同窓会基金へご寄付をいただいた先生方

緒方昌平先生　山徳みゑ先生　　松浦信夫先生　扇原義人先生
縣　陽太郎先生　佐藤雅彦先生　石倉健司先生　能勢孝一郎先生
渡邉智子先生　大熊浩江先生　　田久保憲行先生
（お振込みいただいた順番で掲載させていただいております）

ご寄付をいただきました先生方、ありがとうございました。

事務局より　お知らせ

★2026 年度小児科同窓会総会について
2026 年 6 月 13 日（土）ホテルレンブラント町田にて
総会：17：00 から　懇親会：18：30 から　（予定）

★お願い　～メールアドレスのご登録をお願いします。

通信費の削減のため、また迅速な連絡方法として、同窓会事務局からの連絡をメール配信へ移行しております。現在はメールアドレスのご登録がない方は fax または郵便にて連絡をさせていただいております。この半年間で小児科同窓会からメールが届いていない方は事務局にてアドレスを把握できていないので、以下のアドレスまでメールをいただけますようお願い申し上げます。
あて先：kpdoso@med.kitasato-u.ac.jp　　北里大学小児科同窓会事務局　澤木

★小児科同窓会基金へのご寄付も引き続きお願いしております。

⇒寄付控除も引き続き受けられます。

申請用紙が必要な方は事務局までメールまたは fax にてご一報ください。申込用紙をお送りいたします。
mail：kpdoso@med.kitasato-u.ac.jp
Fax：042-778-9726　北里大学小児科同窓会事務局　澤木宛にお願いします

編集後記

年の瀬を慌ただしく迎える中、無事に 2025 年会報が完成致しました。今回寄稿して頂いた皆様、澤木さん、ありがとうございました。これから小児科医として研鑽していく先生から、長年活躍されている先生まで幅広くお話しを頂きました。来年号は皆さんの趣味にフォーカスした特集などを組みたいと思いますのでご協力お願いします。

追伸

年を取るにつれ仲間内の話題も病気中心となっていきます。私も今年体調を崩し、健康のすばらしさを痛感しております。皆さんも医者の不養生にならないように体調管理を行い、健康を自慢できるように日々お過ごしください。

（広報担当理事：中村信也）

北里大学小児科同窓会事務局

〒252-0375　神奈川県相模原市南区北里 1-15-1
（北里大学病院小児科外来ＣＲ内）
ＴＥＬ：042-778-8920（直通）
ＦＡＸ：042-778-9726
Mail:kpdoso@med.kitasato-u.ac.jp